

# 愛顔の波紋

私には六歳離れた兄がいる。兄はダウン症と先天性心疾患があり、これまでに沢山の大手術を乗り越えている。「ダウン症は天使」と言われるとおりに、心穏やかに透き通った心の持ち主だと思う。しかしいつしか私は、その優しく輝く満面の笑みの影を探すようになった。

私はこれまで、兄の事を不憫に思うと同時に自分を責める時が多々あった。私が学校や習い事で沢山の賞状を手にした時、兄の体には沢山の傷痕が刻まれた。私がパスポートを手にした時、兄はドクターストップをかけられていた。又、兄が先に始めた習い事の試験も、部活等で欠席が多かった私が先に合格した。

—私は兄の分まで奪っているのではないか—

瞳の輝きが羨望の様に感じ、「若ちゃん凄いな、おめでとう。」と言う兄の言葉を聞き入れたくない時さえあった。

そんな、心が晴れない日が何年も続いていた時、兄が私のステージ発表を観る為学校に来た。兄は元々私と一緒にダンスを習っていたが、手術後大好きなダンスが禁止された。ステージ発表本番、私は溢れる拍手と熱気に充足感を得た。私の帰宅を待っていてくれた兄が飛び出してきた、「若ちゃん凄かったあ。心がウキウキした。」と、体を揺らして言った。母が「若ちゃんが楽しそうで嬉しそうな顔が好きなんだね。」と言った。そこには、愛顔で私の顔を覗き込む兄がいた。

他者の喜びも自分の喜びであり、多くの人から頼りにされている兄を見て、私の心配が杞憂であった事が分かった。家族、旧友、同僚、恩師...沢山の人の恵まれ、目標へ向かって輝く瞳は一点の曇りもない。私が私らしく輝く姿が好きだと言ってくれる兄。気付けば私も兄の愛顔に幸せを感じている。他者の喜びも自分の幸せになる、愛がそこにある。その愛の輪が広がって、いつでもどこでもみんなが愛顔でいられますように...